

みずほマーケット・トピック(2017年9月29日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の「中期為替相場見通し」をご参照下さい。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場は上下に激しい展開。週初 25 日に 112 円台前半でオープンしたドル/円は、本邦実需勢によるドル買いが意識される中で 112 円台半ばまで上昇した。しかし、北朝鮮の李外相が「(週末のトランプ米大統領の発言は)明確な宣戦布告」と述べ、リスク回避姿勢が強まると週安値となる 111.47 円まで急落。米金利が下げ止まると 111 円台後半まで戻したが、26 日は安寄りした日経平均株価が下げ幅を拡大する動きに再び 111 円台半ばまで弱含んだ。その後は FRB 高官による講演を控えて米金利が上昇する中、ドル/円は 112 円を上抜け、さらにイエレン FRB 議長が「インフレ率が目標の 2% に戻るまで金融政策を据え置くのは賢明でない」と指摘したことから 112 円台半ばまで続伸。27 日は米 8 月耐久財受注の良好な結果や、米税制改革案への期待感を背景にドル/円は 2 か月半ぶりに 113 円を突破し一時週高値となる 113.26 円をつけた。しかし、発表された税制改革法案はほぼ予想通りの内容で、市場の失望を招くと 112 円台半ばまで反落した。28 日は本邦実需勢のドル売りが警戒される中でドル/円は上値重く推移したが、米金利が上昇すると 113 円台前半まで上値を切り上げた。その後はドル買いポジションの解消が入ったとみられ、ドル/円は 112 円台前半まで値を下げたが、本日は 112 円台後半まで値を戻している。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は軟調な値動き。週末に実施されたドイツ連邦議会選挙の動向を受け、週初 25 日のユーロ/ドルは小幅ながらギャップダウンして 1.19 台前半でオープン。一時週高値となる 1.1937 をつけたが、メルケル首相率いる与党キリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)が第 1 党を維持したものの得票率を大きく減らし、選挙で大敗した社会民主党(SPD)が現在の CDU・CSU との大連立解消を決定すると先行き不透明感が強まり、ユーロ/ドルは 1.18 台後半まで下落した。26 日は米金利上昇を受けてユーロ/ドルは続落し、さらにイエレン議長のタカ派な発言を受けて 1.17 台後半まで値を下げた。27 日は一時週安値となる 1.1717 をつける場面があったものの、公表された米税制改革案に対する失望感からドル売り優勢となると 1.17 台後半まで反発。その後は 1.17 台前半まで弱含んだが、28 日は ECB 理事であるハンソン・エストニア中央銀行総裁がユーロの現水準は適切である旨の発言をしたほか、ユーロ圏 9 月景況感指数が 2007 年 7 月以来の高水準を記録したことなどからユーロ/ドルは 1.17 台後半まで値を戻し、本日のユーロ/ドルも同水準で推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		9/22(Fri)	9/25(Mon)	9/26(Tue)	9/27(Wed)	9/28(Thu)	
ドル/円	東京9:00	112.46	112.47	111.73	112.39	112.88	
	High	112.55	112.53	112.49	113.26	113.21	
	Low	111.65	111.47	111.50	112.23	112.26	
	NY 17:00	112.00	111.73	112.24	112.80	112.35	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1945	1.1927	1.1856	1.1784	1.1751	
	High	1.2004	1.1937	1.1861	1.1795	1.1804	
	Low	1.1937	1.1832	1.1758	1.1717	1.1722	
	NY 17:00	1.1955	1.1848	1.1795	1.1744	1.1786	
ユーロ/円	東京9:00	134.30	134.12	132.49	132.47	132.61	
	High	134.40	134.30	132.60	132.73	132.88	
	Low	133.50	131.92	131.75	132.10	132.32	
	NY 17:00	133.79	132.38	132.37	132.50	132.39	
日経平均株価		20,296.45	20,397.58	20,330.19	20,267.05	20,363.11	
TOPIX		1,664.61	1,672.82	1,672.74	1,664.43	1,676.17	
NYダウ工業株30種平均		22,349.59	22,296.09	22,284.32	22,340.71	22,381.20	
NASDAQ		6,426.92	6,370.59	6,380.16	6,453.26	6,453.45	
日本10年債		0.03%	0.03%	0.03%	0.06%	0.07%	
米国10年債		2.25%	2.22%	2.24%	2.31%	2.31%	
原油価格(WTI)		50.66	52.22	51.88	52.14	51.56	
金(NY)		1,297.40	1,310.83	1,294.17	1,282.81	1,287.33	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、10月2日(月)に9月ISM製造業景気指数の発表があり、各地区連銀の製造業指数は8月から低下しているものが目立つ中、市場では57.5と8月の58.8から悪化すると予想されている。また、4日(水)に発表される9月ISM非製造業景気指数も55.1と8月の55.3から小幅に低下する見通しで、9月ADP雇用統計は前月比+13.8万人と8月(同+23.7万人)から増加ペースが鈍化すると見込まれている。これらの結果を受けて6日(金)に発表される9月雇用統計の予想が固まるだろう。雇用統計では、非農業部門雇用者数(NFP)が前月比+7.5万人(8月:同+15.6万人)と予想されており、増加ペースが大幅に減速する見通しだ。関連指標を確認すると、ハリケーン「ハービー」と「イルマ」の影響で、週次の失業保険統計では雇用統計調査週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数が上昇している。金融政策関連では、4日(水)にイエレンFRB議長の講演のほか、このほかにも多くのFOMCメンバーの講演が予定されている。
- ・本邦では、2日(月)に日銀短観(9月調査)が公表される。大企業・製造業の業況判断DIは+18と、前回6月調査から1ポイント改善すると見込まれている。生産は回復基調が続いているものの、輸出の増勢はやや一服感がみられる。また、資本財出荷(除く輸送機械)も2か月連続で低下しており、既に高めの水準にある業況判断は小幅な改善にとどまるだろう。大企業・非製造業の業況判断DIも+24と、6月調査から1ポイント上昇すると予想されている。個人消費が緩やかな回復を続けているほか、訪日外国人観光客の増加により、インバウンド消費が需要を押し上げたが、8月の長雨が一部産業で悪影響を及ぼした可能性がある。業況判断DIと連動性の高いロイター短観は、製造業・非製造業ともに小幅な改善が確認されている。2017年度の設備投資計画(大企業・全産業)は前年比+8.4%と、6月調査の同+8.0%から上方修正される見込みだ。9月調査では、大企業の計画は6月調査から大きく変更されることはない一方、中小企業では、年度当初では計画が定まっておらず年度を通して上方修正される傾向がある。景気の回復傾向が続く中、設備投資は省力化投資を中心に増加基調を維持するとみられる。

	本 邦	海 外
9月29日(金)	・8月新設住宅着工	・ユーロ圏9月消費者物価(速報) ・米9月ミシガン大学消費者マインド(確報)
10月2日(月)	・日銀短観(9月調査) ・9月自動車販売台数	・ユーロ圏9月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏8月失業率 ・米9月ISM製造業景気指数 ・米8月建設支出
3日(火)	・9月マネタリーベース	_____
4日(水)	_____	・ユーロ圏9月サービス業PMI(確報) ・米9月ADP雇用統計 ・米9月ISM非製造業景気指数
5日(木)	_____	・ECB政策理事会議事要旨(9月7日開催分) ・米8月貿易収支 ・米8月製造業新規受注 ・米8月耐久財受注(確報)
6日(金)	・8月毎月勤労統計 ・8月景気動向指数(速報)	・独8月製造業受注 ・米9月雇用統計 ・米8月卸売売上高 ・米8月消費者信用残高

【当面の主要行事日程(2017年9月～)】

米FOMC(10月31日～11月1日、12月12～13日、1月30～31日)

ECB政策理事会(10月26日、12月14日、1月25日)

日銀金融政策決定会合(10月30～31日、12月20～21日、1月22～23日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2017年9月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数(8月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、8月) 米国 雇用統計(8月) 米国 失業率(8月) 米国 ISM製造業景気指数(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、8月) 米国 建設支出(7月)	
4 日本 マネタリーベース(8月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、8月) ユーロ圏 GDP(確報、4～6月期) 米国 労働市場情勢指数(8月) 米国 製造業新規受注(7月) 米国 耐久財受注(確報、7月)	6 日本 毎月勤労統計(7月) ドイツ 製造業受注(7月) 米国 貿易収支(7月) 米国 ISM非製造業景気指数(8月) 米国 ページブック	7 日本 景気動向指数(速報、7月) ドイツ 鉱工業生産(7月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	8 日本 国際収支(7月) 日本 GDP(確報、4～6月期) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) ドイツ 貿易収支(7月) 米国 卸売売上高(7月) 米国 消費者信用残高(7月)	
11 日本 機械受注(7月) 日本 マネーストック(8月) 日本 第三次産業活動指数(7月)	12 日本 国内企業物価(8月)	13 ドイツ 消費者物価(確報、8月) ユーロ圏 鉱工業生産(7月) 米国 生産者物価(8月) 米国 財政収支(8月)	14 日本 鉱工業生産(確報、7月) 米国 消費者物価(8月)	15 ユーロ圏 貿易収支(7月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月) 米国 小売売上高(8月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月) 米国 企業在庫(7月)	
18 日本 敬老の日 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、8月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(7月)	19 ユーロ圏 経常収支(7月) ドイツ ZEW景況指数(9月) 米国 住宅着工(8月) 米国 FOMC(～20日)	20 日本 貿易収支(8月) 日本 日銀金融政策決定会合(～21日) 米国 中古住宅販売(8月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月) 米国 景気先行指数(8月)	22 ユーロ圏 製造業PMI(速報、9月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、9月)	24 フランス 上院議会選挙 ドイツ 連邦議会選挙
25 日本 景気動向指数(確報、7月) ドイツ IFO企業景況指数(9月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(8月)	26 日本 企業向けサービス価格(8月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(7月) 米国 新築住宅販売(8月) 米国 消費者信頼感指数(9月)	27 米国 耐久財受注(速報、8月)	28 ドイツ 消費者物価(速報、9月) 米国 GDP(3次速報、4～6月期) 米国 個人消費(3次速報、4～6月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、4～6月期)	29 日本 失業率(8月) 日本 家計調査(8月) 日本 全国消費者物価(8月) 日本 東京都都区消費者物価(9月) 日本 鉱工業生産(速報、8月) 日本 新設住宅着工(8月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2017年10月)

月		火		水		木		金		週末	
2		3		4		5		6			
日本 日銀短観(7～9月期) 日本 自動車販売台数(9月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、9月) ユーロ圏 失業率(8月) 米国 ISM製造業景気指数(9月) 米国 建設支出(8月)		日本 マネタリーベース(9月)		ユーロ圏 サービス業PMI(確報、9月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(9月)		ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(9月7日開催分) 米国 貿易収支(8月) 米国 製造業新規受注(8月) 米国 耐久財受注(確報、8月)		日本 毎月勤労統計(8月) 日本 景気動向指数(速報、8月) ドイツ 製造業受注(8月) 米国 雇用統計(9月) 米国 失業率(9月) 米国 卸売売上高(8月) 米国 消費者信用残高(8月)			
9		10		11		12		13			
日本 体育の日 ドイツ 鉱工業生産(8月)		日本 国際収支(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(9月) ドイツ 貿易収支(8月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)		日本 機械受注(8月) 米国 FOMC議事要旨(9月19～20日開催分)		日本 貸出・預金動向(9月) 日本 第三次産業活動指数(8月) ユーロ圏 鉱工業生産(8月) 米国 生産者物価(9月) ワシントン(米国) G20財務相・中央銀行総裁会合(～13日)		日本 国内企業物価(9月) 日本 マネーストック(9月) ドイツ 消費者物価(確報、9月) 米国 消費者物価(9月) 米国 小売売上高(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月) 米国 企業在庫(8月) ワシントンD.C. IMF・世界銀行年次総会(～15日)			
16		17		18		19		20			
日本 鉱工業生産(確報、8月) ユーロ圏 貿易収支(8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月)		ユーロ圏 消費者物価指数(確報、9月) ドイツ ZEW景況指数(10月) 米国 鉱工業生産(9月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(8月)		米国 住宅着工(9月) 米国 ページュブック		日本 貿易収支(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(10月) 米国 景気先行指数(9月)		ユーロ圏 経常収支(8月) 米国 中古住宅販売(9月)			
23		24		25		26		27			
日本 景気動向指数(確報、8月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(9月)		ユーロ圏 製造業PMI(速報、10月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、10月)		ドイツ IFO企業景況指数(10月) 米国 耐久財受注(速報、9月) 米国 新築住宅販売(9月)		日本 企業向けサービス価格(9月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)		日本 全国消費者物価(9月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 米国 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 個人消費(1次速報、7～9月期) 米国 PCEコアデフレーター(1次速報、7～9月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月)			
30		31									
日本 日銀金融政策決定会合(～31日) ドイツ 消費者物価(速報、10月) 米国 個人消費・所得(9月)		日本 失業率(9月) 日本 家計調査(9月) 日本 鉱工業生産(速報、9月) 日本 新設住宅着工(9月) ユーロ圏 失業率(9月) ユーロ圏 GDP(1次速報、7～9月期) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、10月) 米国 雇用コスト(7～9月期) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月) 米国 FOMC(～11月1日)									

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年9月27日	次期ECB総裁人事に関する現状整理
2017年9月26日	メインシナリオへのリスク点検～本邦政局リスクは後退～
2017年9月25日	日銀金融政策決定会合を終えて～「寝た子を起こす」反対票～
2017年9月22日	週末版
2017年9月21日	FOMCを終えて～短期は強気、長期は弱気金利見通し～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年8月分)
2017年9月20日	衆議院解散・総選挙の為替、日銀総裁人事への影響などについて
2017年9月15日	週末版
2017年9月14日	日銀金融政策決定会合プレビュー～総括的「再、検証も視野に～
2017年9月13日	ユーロ圏金融状況指数(MCI)に見るユーロ高の影響などについて
2017年9月12日	クーレ理事発言の真意～ユーロ高はもう看過できない～
2017年9月11日	円相場の基礎的需給環境～ドルインデックス半値押しで思うこと～
2017年9月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～解せないユーロ買い～)
2017年9月7日	タカ派の優勢が強まるFOMC～フィッシャー辞任を受けて～
2017年9月6日	追い込まれる日銀～倒錯した政策運営の現状・展望～
2017年9月5日	ECB政策理事会プレビュー～テーバリングまで至るのか？～
2017年9月4日	ユーロ買いに対する現状認識について
2017年9月1日	週末版
2017年8月30日	メインシナリオへのリスク点検～急浮上してきた地政学リスク～
2017年8月29日	北朝鮮ミサイル発射と円急騰を受けて
2017年8月28日	ジャクソンホール講演～イエレン・ドラギ講演のレビュー～
2017年8月25日	週末版
2017年8月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年7月分)
2017年8月18日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(7月20日開催分)～強まる為替への問題意識～)
2017年8月17日	FOMC議事要旨を受けて～疑われるフィリップス曲線～
2017年8月16日	17年上半期の対米証券投資～下半期に向けてのみどころ～
2017年8月15日	米インフレ期待の現状について～NY連銀消費者調査～
2017年8月14日	VIX急騰で断たれるキャリー取引の芽と不安な米株調整
2017年8月10日	週末版
2017年8月9日	2017年上半期の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計～加速しない賃金と伸び悩む「質」～
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状～フラット化して下方シフト～)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想～OECD景気先行指数を通じて～
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想～日銀議事要旨が示唆する戒め～
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状～調整は始まったばかり～
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検～新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」～)
2017年7月27日	FOMCを終えて～後任人事を見据えてハト派化も？～
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方～シントラ発言の火は消せず～
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて～次の論点は外交的視点～)
2017年7月20日	最新のユーロ相場について～投機筋、PPP、金利差～
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー～「火に油」を避けるべく・・・～
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について～現状の「異常さ」を見つめ直す～)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて～花道的正常化は続く模様～
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか？
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場基礎的需給環境～円キャリーの兆候はあるか？～
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ドラギ総裁はしくじった模様～)
2017年7月6日	FOMC議事要旨～正常化は資産バブル対応？～
2017年7月5日	ECB版テーバー・タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方～「正常化」ブームは流れを変えるのか～
2017年7月3日	都議選の影響を考える～新しいリスクの浮上～
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて～「一時的」が流行る風潮の危うさ～
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検～引き続き目立つ円高材料～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月26日	ブラットECB理事発言を考える～影響力は侮れず～
2017年6月23日	週末版
2017年6月22日	対内・対外証券投資の近況～リセットされたトランプトレード～
2017年6月21日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと～信仰(faith)とデータ(data)～
2017年6月19日	日銀金融政策決定会合～「座して円高を待つ」状況へ～
2017年6月16日	週末版
2017年6月15日	FOMCを終えて～「笛吹けど踊らず」の状況強まる～
2017年6月14日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月13日	盛り上がらない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月12日	ECB政策理事会～「露払い」としてのFG文言修正～
2017年6月9日	週末版(英総選挙を受けて～「不要なギャンブル」の成れの果て～)
2017年6月8日	英下院総選挙について～直前の論点整理～
2017年6月7日	110円割れで思うこと～変わり始めた欧米の論調～
2017年6月5日	日銀総資産500兆円突破を受けて～杞憂の出口議論～
2017年6月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出口戦略の順序に変更なし～)
2017年6月1日	2016年末対外資産・負債残高統計～リスク回避の源泉～
2017年5月29日	メインシナリオのリスク点検～目立つ円高リスク～
2017年5月26日	週末版(本邦4月消費者物価指数(CPI)を受けて～依然、埋まらない日米物価格差～)
2017年5月25日	FOMC議事要旨を受けて～株値は耐えられるのか？～
2017年5月24日	相次いで弱気化するFRB高官～動揺する唯一の支え～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年4月分)
2017年5月23日	メルケル首相発言を受けて～異形のドイツがすべきこと～
2017年5月22日	ドル相場の現状認識～4月分REERの公表を受けて～
2017年5月19日	週末版
2017年5月17日	ドルインデックスの急落を受けて
2017年5月16日	ユーロ相場の現状について～投機買い持ちでも上らず～
2017年5月15日	イタリアG7を終えて～「量」か「価格」か「説得」か～
2017年5月12日	週末版(欧州委員会春季経済予測を受けて～今後心配な「スラックの格差」～)
2017年5月11日	円相場基礎的需給環境～様変わりする景色～
2017年5月10日	米インフレ期待低迷が映す米経済への過信
2017年5月9日	米商務省声明が予感させる「理不尽な円高」
2017年5月8日	フランス大統領選挙を受けて～おさらいすべきフランスの現状～
2017年4月28日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は引き締めが濃厚～)
2017年4月27日	ECB理事会プレビュー～フォワードガイダンス撤廃報道について～